

ADA は科学に耳を傾けています：“歯科用封止材中の BPA は安全です”

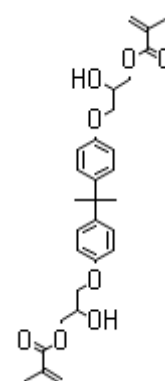
BY STEVEN HENTGES, PH.D ON 2016 年 8 月 24 日, IN INDUSTRY

ビスフェノール A (BPA) のお陰で、今日多くの消費者製品は安全でより効果的です。透明で割れにくいポリカーボネートも、丈夫なエポキシ樹脂もどちらも BPA から作られ、我々は毎日恩恵を受けています。

眼鏡のレンズからバイク用ヘルメットまで、そして防護盾から救命用医療器具まで、ポリカーボネートは我々の生活をさらに暮らしやすくしてくれます。ほとんど目に触れる事はありませんが、エポキシ樹脂コーティングは、金属表面の劣化を防止し、缶詰食品を汚染から守る事により食品安全の下支えを行っています。

しかしながら、最小量の BPA で最も利益をもたらしている単一製品が歯科用封止材であるのは、ほぼ確実でしょう。BPA 自体を直接歯科用封止材として使用する事はありませんが、多くの封止材は bis-GMA (あるいは、化学者にはビスフェノール A・グリシジルメタクリル酸の方が馴染みがあるでしょう。) として良く知られている BPA 誘導体がベースになっています。

米国歯科医師会 (ADA) が述べているように、bis-GMA は、1950 年代に革命的な歯科医師である Dr. Raymond Bowen が使い始めました。



bis-GMA

bis-GMA は、超痕跡レベルの BPA 残渣を含んでいるかもしれないので、bis-GMA ベースの封止材は安全ではないと思われてきました。このような主張に対して、ADA は何年にも亘ってかなりの努力を払い、注意深く封止材の安全性を評価しました。ADA は米国の口腔衛生の指導的提唱者であり、かなり問題になっているので、安全性評価は想定内の事です。

ADA の最新の文章では、安全に対する懸念を力強く終結させるはずです。新たな研究で、ADA の科学研究所は、米国の市場により完全に理解が得られるように 12 の歯科用封止材について解析を行いました。ADA の [業務用製品調査](#) で報告している通り、この研究では封止材からの BPA の放出は極端に低い事を示しています。4 本の歯に使用された封止材からの BPA 放出量の中央値(メジアン)は、0.09 ナノグラムでした。(正しく読んで下さいよ、ナノグラムですよ!)

欧州食品安全機関(EFSA)が最近推定した全ての暴露源からの BPA の全暴露量と比較すると、歯科用封止材による寄与は 0.001% にしかありません。言うまでもなく、この量は、世界中の政府機関が設定した安全な摂取レベルより桁数が小さい数字です。封止材からの

BPA 暴露は、通常は歯科治療後数時間に限られた話ですが、封止材が歯を救う恩恵は数年間継続します。

科学に耳を傾ければ、ニュース報道の見出しにまとめたように ADA の総合的な結論は、「**歯科用封止材中の BPA は安全です。**」でしょう。この結論は、BPA を科学的に再検討した世界中の政府機関の結論と矛盾していません。それら機関のうちで最も注目すべきは、米国食品医薬品局(FDA)が「**BPA は安全ですか?**」との問いに対して、可能な限り簡潔に「はい」と答えた事でしょう。

BPA についてさらに知りたい人は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

→ www.FactsAboutBPA.org.